

書く力を高める授業の研究

～主体的に考え表現する力の育成を目指して～

平群町立平群東小学校

(1) 学力調査活用アクションプランを活用した取組の実際

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果から、第6学年の児童は国語科の平均正答率はA、B問題とも県平均を上回っているが、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか。」「うまく伝わるように話の組み立てを工夫しているか。」「考えの理由が分かるように気を付けて書いているか。」など、表現活動に関する質問に対して肯定的な回答の割合が低いことが明らかになった。

本校は、2年前より「書く力を高める授業の研究」を主題に取り組んできたが、4月に全学年に行った「書くことに関する児童の実態調査」でも同様の課題が挙げられていた。そこで今年度、次の2点を柱に各学年で授業実践を行い、研修会や研究授業・協議を通して指導方法の工夫改善を進めてきた。

○取材、構成、記述などの書く過程で、語彙の獲得や技能の習得に向けた手立ての工夫
○伝える楽しさや喜びを実感し、書く意欲が高まるような評価・交流の場の設定

さらに、学習状況調査から研究主題に関する項目を選択し、第2～6学年を対象に9月と12月の2回、実態調査を行った。

各学年の取組（授業実践）の一端を以下に挙げる。

【第1学年】

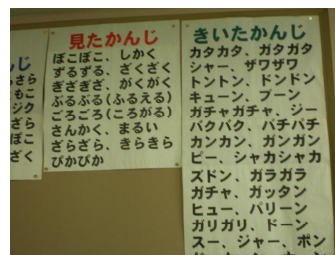
1. 付けたい言葉の力 「特徴を表す言葉を集め、選択して書く力」

2. 指導の実際

単元名 「知らせたいな 見せたいな」

「飼育小屋の動物を観察し、その特徴を分かりやすく伝えよう」

- ・表現するためのいろいろな言葉を知り「ことばのポケット」を作る。(下の写真)
- ・小動物と触れ合い、ワークシートに絵を描き、状態や様子をメモする。
- ・「ことばのポケット」の言葉を使って、メモを基に見付けたことを項目（目、くちばし、足など）ごとに短冊カードに書く。
- ・短冊カードの内容を原稿用紙に書く。
- ・家の人に読んでもらう。



3. 成果、改善された点、児童の変容など

「ことばのポケット」は、聞いた感じ・見た感じ・さわった感じ・思ったことなどの四つのポケットに分けて作った。児童たちは積極的にたくさんの意見を出し、「ざらざら」など見た感じにもさわった感じにも入るものもあるということに気付いている児童もいた。また、授業以外でも、「こんな言葉もある」と言葉集めをしている様子も見られた。動物の様子を短冊カードに書く時には、「ことばのポケット」を見たり、それ以外のオノマトペを使ったりして文を書いていた。また、この単元だけでなく、作文や、生活科の観察カードでも、オノマトペを使って書く児童がいた。

【第2学年】

1. 付けたい言葉の力

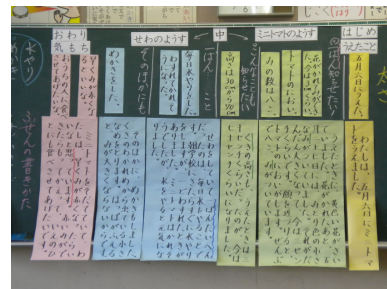
「説明する題材に必要な事柄を集め、簡単な組み立てを考えて書く力」

2. 指導の実際

単元名 「観察名人になろう」

「ミニトマトの成長をおうちの人につたえよう」

- ・観点を明確に観察・記録する。
- ・伝える内容と組み立てを考える。(付箋の活用)
- ・伝えたい事柄を選ぶ。
- ・記述する。モデル文を提示する。(右の写真)
- ・交流する。グループで読み合い、よかったところを伝え合う。



3. 成果、改善された点、児童の変容など

上述のような取組を進めた結果、例えば、具体性に欠ける説明文を書いていたA児は「観察の観点」や「比較の観点」を明確にして書く技能を身に付けた。そして、「分かりやすさ」を意識した説明ができるようになってきている。また、話が飛躍し一番伝えたいことの内容が伝わらない傾向があったB児は、「一番伝えたいこと」を付箋に書いて整理したり、書き出しを示したりしたところ、伝えたい事柄を取捨選択することができた。書くことに苦手意識をもっていたC児は、観察する部位と観点を明確にして記述するように指導した結果、書き方に変容が見られ、記述に要する時間も短くなった。学年全体の様子を見ていても「相手を意識する」「分かりやすく伝える」「理由を付けて説明する」等が意識してできるようになってきていると思われる。

【第3学年】

1. 付けたい言葉の力

「相手や目的意識をはっきりとさせて、自分が伝えたいことを、相手により伝わるように文の構成を考えながら書く力」

2. 指導の実際

単元「『アオムシコマユバチ』の紹介文を書こう」

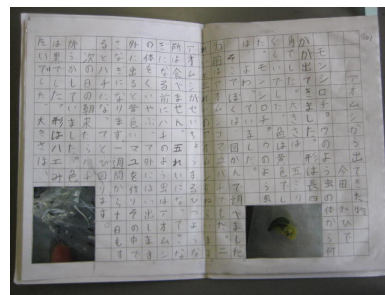
「付せんを使って、書きたいことを整理しよう」

- ・調べたことや、分かったこと、考えたことなどを付箋に書く。
- ・付箋を並び替えながら、文章の順序を考える。
- ・互いに、書いた文章を発表し合い、相互に評価し合う。
- ・交流する中で、質問されたことや、指摘されたことを取り入れて、より相手に伝わるように推敲をする。

3. 成果、改善された点、児童の変容など

書くことが苦手だった児童は、相手を意識することで、意欲的に取り組むことができた。何から書けばよいのか分からず書けなかった児童は、付箋を使うことで、順序を考える作業がしやすくなり、楽しんで考えることができた。

できあがった文を読み、感想を書いてもらうことで達成感を感じ、その後の書くことへの意欲につながったと考える。



できあがった紹介文

【第4学年】

1. 付けたい言葉の力

「アンケートの結果から、自分の考えが明確に伝わるように構成を考えて書く力」

2. 指導の実際

単元名「生活を見つめて」

「生活の中で気付いた身近な問題について、調べたことが伝わるように書こう」

- ・調べたいテーマを決める。
- ・テーマについて調べるために必要な項目を考える。
- ・アンケートを作成し、結果をグラフに表す。
- ・グラフを見て、「結果」と「結果から考えたこと」を書く。
- ・「結果」と「結果から考えたこと」を相互評価する。
- ・構成を考えて、報告文を書く。
- ・調べたことを発表する。



「結果」と「考えたこと」の記述を相互評価する児童

3. 成果、改善された点、児童の変容など

「結果」と「結果から考えたこと」を区別して書けていなかった児童が、相互評価をすることで区別して書くことができるようになった。この学習を通して、相手に伝わるように書くにはどうしたらよいかを意識して書くことができるようになってきた。実態調査の「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしているか。」の肯定的回答が、38%（9月）から47%（12月）に上昇した。

【第5学年】

1. 付けたい言葉の力

「自分が伝えたいこと、相手が知りたいことなどを考えて発信する力」

「編集作業を通して、集めた材料を目的に合わせて整理し、加工して伝える力」

2. 指導の実際

単元名「工夫して発信しよう」

「校内放送で、『校内ニュース』や『学校の不思議』を全校児童に伝えよう」

- ・全校児童に知らせたいテーマを決め、知りたい情報や疑問に迫れるように情報を集めるための取材をする。
- ・取材で得た情報を基にテーマに沿って内容を絞り、より正確に伝わるように言葉を選んで原稿を書く。
- ・その原稿を学級で発表し、他のグループとより正しく伝えられるための意見を交流し合い、それを考慮しながら原稿を書き直す。
- ・校内放送で、全校児童に発表する。



黒板に掲示した評価の観点を基に、付箋に書いてもらった意見を見ながらグループで考えている子どもたち。よりよく伝わるように文章を改善しようと話し合っている。

3. 成果、改善された点、児童の変容など

他のグループから付箋に書かれた意見をももらった後、グループで話し合い、伝わりにくかったり難しい言葉だったりしたところをより伝わりやすい原稿にし、発表することができた。

【第6学年】

1. 付けたい言葉の力

「自分の考えを明確にするために、文章全体の組み立ての効果を考えて書く力」

2. 指導の実際

単元名「自分の考えを発信しよう」

「『平和』について考え、意見文を書こう」

- ・「平和を壊すものは何か」「なぜ争いが起こるのか」について自分の主張を考える。
- ・モデル文から意見文に何を書かなければいけないのかを読み取り、構成を考える。
- ・段落別に色分けした付箋を使いながら文章を組み立てる。
- ・完成した構成メモを相互評価し、修正する。
- ・できあがった構成メモを基にコンピュータで文集に仕上げる。



主張と根拠の整合性を相互評価する児童

3. 成果、改善された点、児童の変容など

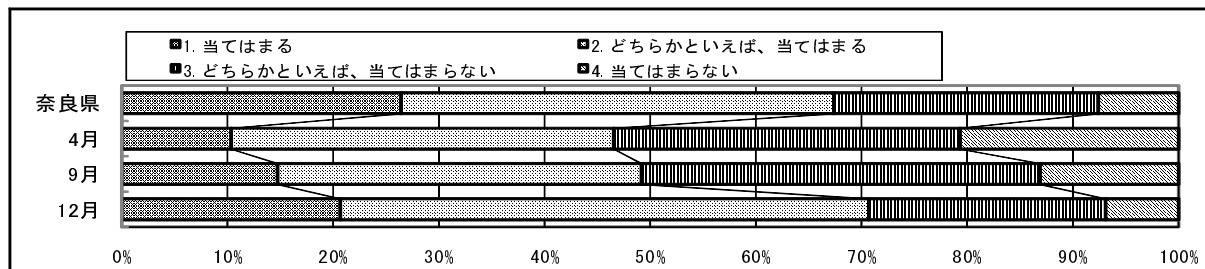
書き進めていく中でだんだんずれていった自分の主張が、相互評価を行う事により修正できた。また、友達の意見文を読むことで、表現の仕方を取り入れることができた。

自分の意見を相手に分かりやすく伝えるという学習を通して、普段の授業の中でも自分の意見を発表する際に理由を明確に述べたり、より説得力のある意見を述べたりすることができるようになった。それに伴って発表すること自体にも積極性が見られるようになった。

(2) 成果について

- 文種や題材に応じて必要な語彙を使って表現する力が高まった。書くことに抵抗をもっていた児童が楽しんで意欲的に書けるようになってきている。
- 評価や交流活動を通して、読み手（聞き手）にとって必要な情報、分かりやすさなどを考え、表現する力が高まった。相手の反応から達成感を得られる学習活動になった。
- 実態調査の結果から、国語科の学習に関する児童の意識の向上が明らかになった。例えば第6学年の「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」の質問では、4月→9月→12月と段階的に肯定的な回答が増え、4月から12月では20ポイント以上の向上が見られた。

実施した全ての学年を通してみても、全体の84%の項目で児童に意識の向上が見られる結果になった。学校全体で、本研究に取り組んだ成果といえる。



〔国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。〕

(3) 課題について

今後はさらに、次の2点を課題に継続的に取り組んでいきたい。

- 『書くこと』の年間指導計画表の見直しと改善（指導の系統性の明確化）
- 個に応じた指導・支援の工夫